

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 安全で質の高い看護を提供する。

病態変化時の IC への同席については、医師から電話での IC が行われることが多く、看護師が直接家族の反応を確認する時間が減少した。IC 後は内容を確認し、患者の状態に応じて面会について相談し、コロナ禍でもタイミングを逃さず面会できるように調整した。ターミナル期の患者への対応について多職種カンファレンスを1件開催した。今後も患者のニーズに応じて多職種カンファレンスを開催し、看護の質の向上に努めていく。

2) 病院経営に参画する。

今年度は DPCⅢ期越患者の減少に取り組み、前年度 33 名から 9 名にまで減少することができた。コロナ禍で転院先の受け入れ中止などにより、Ⅱ期越えとなる患者もいたが、病棟担当 MSW と入院時から連携をとり、早期介入を行うことで、Ⅲ期内での退院・転院調整を進めることができた。新たに始まった二次性骨折予防継続管理料 1 については算定漏れを防ぐためにミーティング時に多職種で情報共有しながら取り組むことができた。一方で、認知症ケア加算や排尿自立指導料については入力漏れが見られており、引き続き取り組みが必要である。

3) 患者の視点に立った医療安全を推進する。

患者影響レベル 3b事案として腓骨神経麻痺が 2 件発生した。1 件はサイズの適していない弾性ストッキングの装着、1 件は外転枕固定によるものであった。観察方法について周知するとともに、予防策について共有を行った。今後も定期的な声掛けを行い、再発防止に努めていく。褥瘡発生件数は 7 件で前年度 33 件から 21%大幅に減少した。フローを活用し、入院時より適切なマットを選択することで効果が得られた。また、本年度より PameQ を使用した評価も行い、結果をもとにした勉強会も実施した。根拠をもって患者により適切な個別性のある看護が提供できるよう、引き続き取り組みを行っている。

4) 専門職としての能力開発に務める。

中国四国看護研究学会で 1 題発表することができた。月 1 回の整形勉強会の運営を行い、1 年を通して院内に向けて開催することができた。また病棟独自の看護に関する勉強会を継続して行っている一方で、例年、急変時の対応については不安を感じるスタッフが多く、とくに新たに夜勤リーダーをするスタッフのストレスとなっている。BLS 研修は年 1 回開催しているが、今後はより現場に即した事例をもとにしたシミュレーション研修を企画し、急変事例に対応した経験がないスタッフでも、急変対応ができる自信がもてるよう企画していく。また、専門知識だけでなく、フィジカルアセスメントなどの基礎的知識を定着させ、急変を防げる看護ができるよう取り組んでいきたい。

5) 看護の先輩として学生に関わる。

1 年を通じて実習指導者を中心に、各実習目的を達成できるように患者選定やカンファレンス内容の検討を行い、教員と情報共有しながら、実習支援を行った。今後は、日々学生と関わるスタッフ全員が共通認識をもって、学生の実習を支援できるよう取り組んでいく。学生のアンケート結果を参考にしながら、実際の実習生の反応を確認した上で、柔軟な対応をとっていけるよう引き続き実習指導者を中心に取り組んでいく。

6) 活気ある職場、元気の出る職場づくりを推進する。

ナイトアシスタント導入やシーツ交換の業者委託によりタスクシフトが進み、業務整理を行う事ができた。クラーク1名を搬送・外交担当とし、1名はできるだけスタッフステーションでできる業務を担当することで、入院患者や手術のために来院した家族の対応を早期に行えるようになり、接遇改善に繋げることができた。また、電話対応をクラークが積極的に行うようになり、看護業務の中断が減り、業務の効率化に繋がった。一方で時間外勤務は今年度も増加しており、来年度はさらに抜本的な業務内容の見直しを行っていききたい。

2. 病床運営状況

表1 令和4年度 病床運営状況

収容可能 病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院 患者数(人)	平均在院 日数(日)	病床 利用率(%)	病床 稼働率(%)
		新入院患者数(人)	退院患者数(人)				
48	腎臓内科 腎移植外科 泌尿器科 整形外科	81.08	32.75	41.3	13.6	86.1	93.1

重症加算病床		有料個室		死亡者数(人)
病床数(床)	稼働率(%)	病床数(床)	稼働率(%)	
4	94.4	6	96.8	18

3. 看護体制

表2 令和4年度 看護体制(令和4年4月1日現在)

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
35	PNS [®]	3:4

4. 看護統計

1)重症度、医療・看護必要度

表3 令和4年度 一般病棟 重症度、医療・看護必要度Ⅱ

基準を満たす 患者の割合(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
		42.4	44.4	36.1	39.5	45.9	39.7	44.4	40.9	44.5	34.4	43.1	35.6

2)部署データ

(1)移植件数

生体腎移植	成人10件(小児4件)
献腎移植	成人2件

(2)透析導入件数

血液透析	新規導入10件/年、再導入6件/年
腹膜透析	5件/年